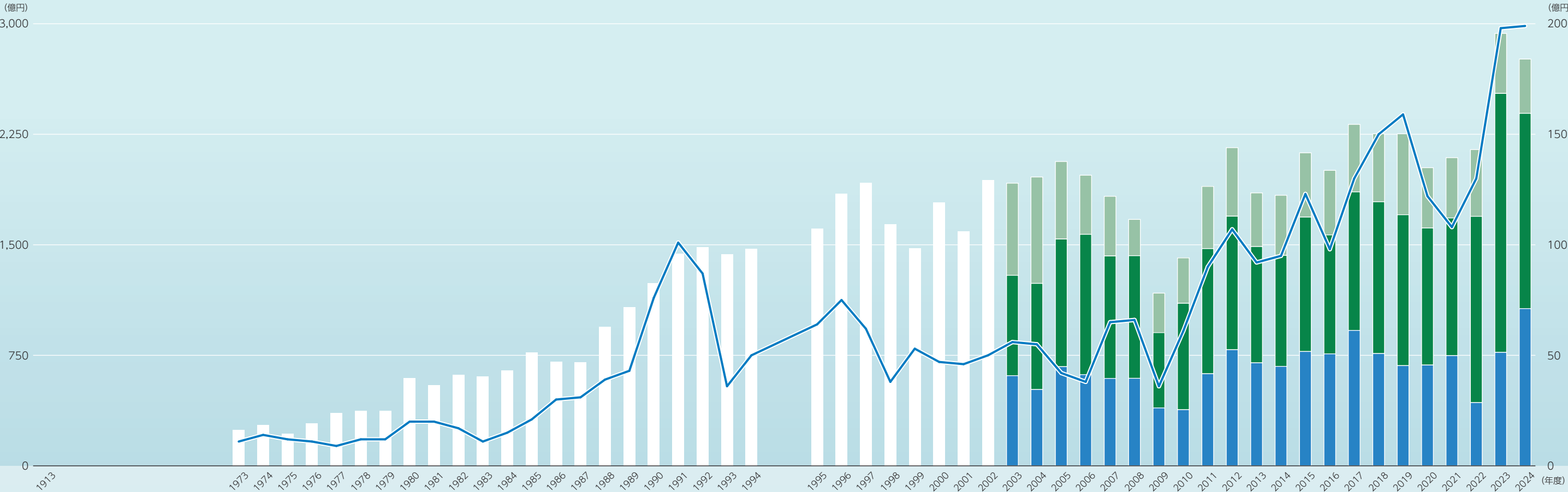


私たちの強みはどこにあるのか

価値創造の歴史

当社は1913年、ドイツ系の機械輸入商社エル・レイボルド商館を母体とし、「合資会社建材社」の名で歩み始めました。創立以来、112年の年月が経過し、大気社グループはおよそ5,000人の従業員を抱えるグローバル企業グループへと発展を遂げました。

完成工事高と経常利益の推移



1913-1948

創業当初は、ドイツから輸入した建築材料の販売や据え付けを主に行っていましたが、設備の納入に工事の仕事をあわせて行う必要が生じたため、ドイツから暖房工事の技師を招へいし、最新式の暖房技術の導入を図りました。1918年、東京・丸の内に完成した東京海上ビルは、わが国最初の近代的オフィスビルです。当社はこの大建築に強制循環式温水暖房設備と浄化槽を納入し、建築設備業界に確固たる地位を築きました。1930年代からは、日本の紡績産業が飛躍的に伸長しましたが、精紡プロセスでは空調システムが必須の設備であり、その設計施工を手掛けた当社は急速に業績を拡大させました。



1918年 東京海上ビル

1949-1970

第2次世界大戦によって日本の製造業は壊滅的な打撃を受けたものの、戦後は繊維産業に加え、カメラ、フィルム、医薬品、電子などさまざまな分野で工場建設が進み、これらの工場では、製品不良を防ぐため、高い清浄度を維持できる空調設備が求められました。当社は、こうしたニーズに応える形で精密空調、そしてクリーンルームへと技術力を高めていきました。1953年からは自動車の塗装設備事業に本格的に参入し、この自動車塗装分野は当社を支える大きな柱の一つに成長していきました。



1932年 本社前での記念撮影

1971-1989

1973年、当社は「建材社」から「大気社」と社名を改め、新たなスタートを切りました。この時期、当社は日系顧客の海外進出に歩調を合わせ、タイ現地会社の設立をはじめ、世界各地に拠点を設置しました。海外工事の経験を積みながら、日系のみならず、地場系、欧米系へも顧客を拡大していきました。1980年代に入ると、日系自動車メーカーの北米進出ラッシュに対応し、アメリカのビッグスリーからの塗装プラントも受注しました。また、1973年の第1次オイルショック以降、オイルダラーを得た中東各国で投資が活発となり、当社はイラン、イラク、アラブ首長国連邦などでプラントや病院の設備工事を受注しました。



1955年 東洋ナイロン社工場(韓国)



1961年 東洋工業(現・マツダ)F工場

1990-2001

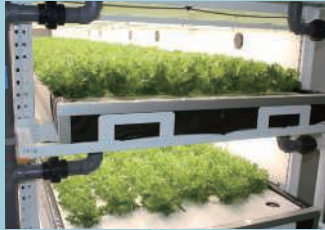
1990年代は、インターネットや携帯電話の普及によってIT技術の普及が一気に進んだ時代です。クリーンルームの設計施工で先端的な技術を持つ当社は、IT機器の核となる半導体、ハードディスク、コンデンサなどの製造工場建設に参画し、電子部品業界における評価を高めました。マレーシアのペトロナスツインタワーや東京の超高層ビルなど、ランドマークとなる建物の空調設備工事の実績もこの時期増加しました。



1994年 ペトロナスツインタワー(マレーシア)

2002-2022

IT化の進展は、情報伝達の面で地理的な制約を小さくし、情報処理のスピードを上げました。グローバル化は一層進展し、国境を越えた投資や分業が多くの産業で一般化しました。当社グループにおいても、グループ間での調達業務支援や人的資源補完が日常的に行えるようになり、プロジェクトをグループ総合力で解決する事案が増えました。その結果、2011年度には海外完成工事高比率(連結)が51.3%となりました。海外完成工事高が50%を超えたのは、創業以来初めてのことです。



2018年 植物工場実証開発センター設立



2019年 テクニカルセンター開設

2023-

世界的な目標である、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、環境技術に対するニーズが高まっています。こうした変化を踏まえ、R&Dサテライトの設置や、研究開発施設の拡充を図っています。また、2025年5月、当社グループでは初となる長期経営計画「10年プラン2035」を策定しました。グローバルに進展する産業革新を当社の事業機会として捉え、「グリーン化」と「スマート化」のエンジニアリングによって、持続可能な社会に貢献していきます。



2024年 TAIKISHA INNOVATION SITE Alkawa